

# 平成 30 年度 21 世紀金融行動原則 運営委員会(第 3 回) 議事要旨

日時: 平成 31 年(2019 年)2 月 7 日(木) 15:00~17:00

場所: 第一生命保険(株) 日比谷本店 本館 6 階大会議室

## 開会

### ○事務局より配布資料の確認

### ○運営委員長から挨拶

- 第一生命さんに、素晴らしい会場を提供いただいたことに感謝したい。損保ジャパンの佐々木さんが海外出張のため、タスクフォースにも参加いただいた堀さんにお越しいただいた。
- 本日は代理で司会を務めさせていただくので、よろしくお願ひしたい。

## 1. 今年度の活動について

### (1)今年度の活動(WG 等)

#### ○運営委員会及び総会について事務局より資料1-1に沿って説明

- 運営委員会は第 1 回目を 5 月に、第 2 回を 10 月に、今回、第 3 回と計 3 回開催した。
- 予算に関する臨時総会を 6 月に開催し、昨年度の収支監査報告と今年度予算について、全会一致で承認された。
- 定時総会は、3 月 6 日(水)に昨年度と同じ会場で開催を予定している。議題 3 にてご議論いただきたい。

#### ○各ワーキンググループの活動状況について WG 座長より資料1-1に沿って説明

##### (運用・証券・投資銀行業務 WG)

- 今年度は、WG をここまで 2 回開催し、第 3 回を来週、2 月 15 日に開催予定。
- 第 1 回 WG を 11 月 13 日に保険業務 WG とともに、スウェーデン大使館で「サステナブル・インベストメント・フォーラム ESG&グリーンボンド」と題して開催した。ESG を中心にディスカッションを行った。関心のあるテーマで、120 名が参加した。パネリストには金融庁からもお越しいただき、活発に議論が行われた。
- 第 2 回 WG は、11 月 20 日に模擬エンゲージメント、ESG 情報と企業価値というタイトルで、企業側、投資側それぞれに登壇いただき、意見交換をさせていただいた。最近注目されている情報開示を進めている堀場製作所と住友商事にお越しいただき、情報開示の目的、ねらい、投資家に期待することを報告いただいた。投資側としては三井住友アセットマネジメントの齋藤氏、インベスコ・アセット・マネジメントの小澤氏にお越しいただいた。事前にシナリ

オを作らず、直接対話の形で行い、緊張感あふれる WG となった。見ている側も、聞いている側も面白かったのではないかと。100名近い参加者にお越しいただいた。

- 第3回 WG は、来週の金曜に行う予定である。前回、第2回は企業からの報告であった。ただし企業の声として、投資側の声を聴きたいという意見があったため、攻守を逆転し、投資家が ESG 投資を、どのように考えているかを報告いただき、企業から質問する形で行いたい。基調講演を依頼している吉高氏は、全体を俯瞰したコメントをいただけると期待している。参加者申込者は175名となっており、キャンセル待ちも50名を超えるほどになっている。関心の高い WG となっており、引き続き、盛り上げたい。

### **(保険業務 WG)**

- 先ほどご説明のあったスウェーデン大使館で、運用・証券・投資銀行業務 WG と共同開催した第2回 WG に加えて、第1回 WG を6月に TCFD (Task Force on Climate-related Financial Disclosures : 気候関連財務情報開示タスクフォース) などをテーマに開催した。
- 第1回 WG は「気候変動と保険業界」と題して、東京海上の長村氏からお話いただいた。ジュネーブ協会という保険業界の CEO が集まった会合で話されている気候変動が保険業界に与える影響や、保険会社としてどのように対処すべきかをご紹介いただいた。長村氏は TCFD の提言書の作成にも関わった方である。今年初めには、TCFD については大枠を理解する程度だったが、各社に求められること、着手すべきことを策定に関わられた立場から分かりやすく整理いただき、意見交換も非常に活発であった。
- 海外の方と話をしていると TCFD に対する保険会社の期待や責任の大きさを感じ、リーダーシップを発揮することが大事だと考えている。一方、国内に目を向けると、保険会社は各地域に支店を多く抱えている会社も多い。地域経済の活性化や SDGs の実現支援なども、保険業界としてどのように考えるかはよいテーマであり、今後、それらに取り組んでいく。

### **(預金・貸出・リース業務 WG)**

- 本年度は7月に、持続可能な地域支援 WG と合同で開催した。UNEP-FI でポジティブ・インパクトを担当しているジェローム・タジャー氏の来日に合わせて開催した。新しいコンセプトであるが、社会的なインパクトを統合し、ポジティブかネガティブかを判断する。最終的には SDGs の定量評価につながるテーマについて議論を行い、有益な情報が得られた。通常であれば東京で行い、次に地方でというのが WG の特徴である。しかし共催いただける地銀がなく、開催を見送った。
- ESG 金融懇談会の提言が出て、ESG 投資のメインストリーム化が進み、ESG 投資が進んでいる中で、両輪として間接金融の世界でも、それらの定着が必要との提言が出されている。地域金融機関で、リレバン (リレーションシップ・バンキング)、あるいは地方創生という切り口で何ができるかを、環境省が調査している。それを踏まえて地銀との対話が行われる。その対話と関連させ、地銀とも多角的な検討ができればと考えている。

### (環境不動産 WG)

- エリアコミュニティーなど地域で面的に SDGs をどのように実現するかにフォーカスを置いて活動している。第 1 回 WG を静岡銀行の協力を得て、浜松で開催した。テーマは都市、まちで SDGs を形にすることである。都市デザインをどのように作り変えていくのか、そのためにどのように官民連携をするのか、協調をして何をを目指すのかについて、3 名の方からご講演いただき、会場を交えてディスカッションを行った。最初に国立環境研究所・IGES で SDGs を担当している藤野氏からお話いただいた。次に公民連携アドバイザーでもあり、ファシリティーマネジメントの研修アドバイザーでもある浜野氏から、都市部と山間部があり、日本で 2 番目に大きい面積を有する浜松市の 4 箇所で行われている取組をご説明いただいた。グリーンビルディングジャパンの技術面の委員をされている永積氏から、SDGs でも日本では素通りされている感のある教育や貧困、格差などが街づくりと密接に関連していることをご報告いただいた。地域において面的に SDGs に取り組むことで、エネルギーの削減、低炭素もできるし、資金の再投資にもつながるといった話が出た。スキームとしては面白いということで、名古屋、札幌、東京で実装するという話につながりつつある。残念なのが金融機関の関与が乏しいことだ。今後は金融機関に、どのように参加いただくのがよいのかを掘り下げたい。
- 第 2 回 WG は、3/15 に京橋にあるシティラボ東京というコワーキングスペースで行う。単体のビルやコミュニティーの持続性に関する取組の進捗を、KPI (Key Performance indicator) で測ることが、世界的なトレンドになっている。その実測、検証、進捗を測るアークという新しいプラットフォームができ、急速に普及しつつある。タウンマネージャー、エリアマネージャーをお呼びする予定である。

### (持続可能な地域支援 WG)

- 持続可能な地域支援 WG は計 5 回開催している。
- 第 1 回 WG では、自然資本の金融セクター、ナチュラル・キャピタル・コアリションについて、マーク・ゴーフ氏の来日に合わせ、我々の自然資本研究会と共同で、金融セクター向けのサプリメントについて説明していただいた。今は気候変動が中心だが、次に来るのは自然資本だと考えており、このテーマを今後とも掘り下げたい。
- 第 2 回 WG では、SDGs は前年度から重視していたテーマであり、地域の中小企業が海外に出る際に、どのように金融面から支援ができるかに絞って議論した。JICA の小澤氏には、実際に JICA が支援している企業向けの支援策のお話をいただいた。TREE の水野氏からは、動画を用いて地域の技術を海外に売るためにどうしたらよいのかを紹介いただいた。非常に面白いコラボレーションであった。
- 第 3 回 WG は、預金・貸出・リース業務 WG と合同で開催した。
- 第 4 回 WG では、第 2 回をさらに深堀した。地域の中小企業の海外進出を、地銀がいきなり支援するのは難しい。JICA が調査をして、その後にプライベート・エクイティ的に出資をし、事業が波に乗ってくれば地銀が支援をするというストーリーが描けないかということで、産業革新投資機構の新しいスキームを紹介いただいた。実際に中小企業

が海外進出できるのかという点について、有名な TBM の山崎社長にお話をいただいた。事業調査から当初の出資までの流れを報告いただいた。非常によい取り組みをされている様子を伺った。

- 第 5 回 WG は、認知症をテーマに 1/15 に開催した。地域で認知症を支えるために、どのようにしたらよいかをテーマにした。地域で支えている業界として、金融機関以外にコンビニ業界、分譲マンション業界などがトップ 3 だ。それぞれでどのような努力をしているかを報告いただいた。この分野で有名な電通の斎藤氏に全体の取りまとめをしてもらいつつ、最初と最後に厚労省の方にも入ってもらい、地域包括ケアの具体的な方法と、どのようなコラボレーションができるかを議論した。企業と福祉の世界の方が一堂に会することがなかったらしく、福祉の世界の方にインパクトがあった。厚労省からも、金融とのつながりができたため、どのように政策に落とし込んでいくのかという話もあった。このテーマは来年度以降も続けたい。

### ○委員等からの意見

- 預金・貸出・リース業務 WG は今年度 1 回のみと報告いただいた。地方 WG をお願いするところがなく、難しいと感じている。環境省にご協力いただきながら、地方銀行の SDGs の取組を調査する中で、結び付けられればと思う。
- 2 年前に静岡で WG を開催した。しかし開催するには相当なパワーが必要で、費用もかかった。開催しやすいようにハードルを下げる仕掛け、お膳立てがないと手を挙げてくれる地方銀行はないのではないかな。
- (環境省) 別事業も含め、環境省経済課では、地方の銀行を今年度だけで、延べ 30~40 行訪問した。SDGs については、月を追うごとに地銀の意識が高まっていると感じる。これまで開催できていない四国や東北、北陸、3 年前に行った九州なども自然資本も含めて機運が高まっている。お声がけしながら地方開催を進めたい。
- 地銀の皆様から東京事務所の方宛に、講義のテーマを毎年聞いている。今年のテーマは SDGs であり、私が講義をした。地銀の皆さんは、熱心に SDGs にどのように取り組むか、地方でどう位置付けるかに興味を持っていた。
- 運用・証券・投資銀行業務 WG に参加している。座長のりそな銀行さんが活発に動かれている。SDGs の話も出ているが、当社は ESG にフォーカスしていた。世の中的には SDGs をどう考えるか。ESG に比較して、SDGs は動的な印象があり、馴染みやすい。当社としてもキャッチアップしていきたい。こちらでも WG を支援できればと考えている。
- 座長役を務められている松原さんに、過剰な負担をおかけしたと痛感している。セミナーに多くの方が参加されている流れを広げるように、積極的に動きたい。
- 損保ジャパンさんと東京海上さんに頼りきりだった。WG の開催会場には、お金をかけないようにと議論をしていたが、会議室を借り、環境省や事務局への負担をおかけしている。形式的ではあるが気になっている。
- リースに関しては、WG を行わせていただいた。署名機関ではリース会社が一番増えている。リースの WG は必然的に開催する必要がある。リース会社では、自然循環、3R、

シェアリング、リースレンタルなど物貸しのところでお力添えしたい。保険 WG は中小企業を対象にされていた。弊社もお客様は中小企業であり、環境面だけでも中小企業が二酸化炭素の削減もやらないと目標達成もできないであろうし、そのような意識を中小企業さんに持たせるような機会があればと思う。

### ○運営委員小括

- 会場、運営の負担、金額などの様々な意見をいただいた。来期に向けて、環境省や事務局とも打ち合わせをしたい。田辺補佐も含め、環境省のみなさまには今後ともご支援いただきたい。各 WG の座長の皆様にも引き続きよろしくお願いしたい。

## (2)取組事例集のとりまとめ

### ○取組事例集のとりまとめについて事務局より資料1-1に沿って説明

- 取組事例は、現時点で 241 機関から提出があった。うち事例公開は 215、非公開、総合報告書提出は 26 であった。まだ未提出の機関が 28 機関ある。
- 当初の事例提出の締め切りであった 10/31 間近、またそれ以降に署名した機関は今年度については、提出を免除となっている。そちらは 4 機関ある。
- 今年度も昨年度同様に、冊子ではなく、WEB サイトでのデータベースとして掲載している。データベースとして掲載するための取りまとめを進めている。定時総会のある 3/6 の公開を目指して作業を進めている。

### ○委員等からの意見

- 特になし。

### ○運営委員小括

- 引き続き、事務局に取りまとめの作業を進めていただきたい。

## (3)最優良取組事例の選定と表彰

### ○事務局より資料1-1、1-3に沿って説明

- 2018 年 11 月 16 日より募集を開始し、12 月 20 日が当初の締切だったが、応募が少なかったため、1 月 17 日まで締切を延長した。その結果、最終的に 25 件の応募があった。
- 現時点で、事務局での第一次審査により 11 件が選ばれている。資料 1-3 には、応募案件 25 件全てを示している（なお資料 1-3 は運営委員のみの配布）。
- 大臣賞については、選定委員会を設けている。設置要綱は資料 1-2 をご覧いただきたい。今年度より、新たな選定委員としてクレアンの菌田綾子さんに依頼し、ご快諾いただいた。委員長が末吉氏、委員に高崎経済大学の水口先生、環境省の西村課長となっている。選定委員会は 2 月 13 日に実施する。
- 大臣賞とは別に、運営委員長賞がある。「持続可能性」の観点を重視し運営委員長に選定していただくことになっている。運営委員長にはよろしくお願いしたい。

- 昨年度からの変更として、受賞社を総会の場で公表していたが、今年度は 2 月下旬頃、事前に受賞機関名や受賞取り組みを WEB で発表し、表彰式を総会で行う形式にしたい。これについてもご意見いただきたい。

### ○委員等からの意見

- 特になし。

### ○運営委員小括

- 最優秀取組事例は 25 件。昨年度もこれぐらいだったか（事務局より 28 件と回答）。どのような形で行うかは考える必要がある。昨年度、当社は運営委員長賞をいただいた。今年も出したが落選した。残念だったが、事例としては毎年、出す必要があると考えている。どうして落ちたのかのフィードバックがあるとよいのではないかと。積極的に応募していただくとともに、インセンティブがあったらよい。大臣室に飾ってもらうなど。そのあたりのアイデアをいただきたい。まず応募いただくことが大事なのではないか。
- 第一印象として応募数が少ないと感じた。ここにおられる企業は応募されている方が多いと思うが、どうやったら応募してもらえるかを考える必要がある。業界団体に属している機関も多くあると思うので、活用方法についてアイデアを出す必要があるのではないかと。
- 大賞の発表を乞うご期待ということで、私も楽しみにしたい。

## 2. ESG 金融戦略タスクフォースからの報告

### ○事務局より資料2-1、資料2-2に沿って説明

- 第 2 回の運営委員会で決定し、設置された「G20 に向けたタスクフォース」だが、最終的にはこの TF の名前は「ESG 金融戦略タスクフォース」に変更した。
- 当初、本年 6 月に日本で初めて開催される G20 をターゲットとすることを、前面に出していた。それにとどまらず、環境省が昨年 7 月に発表した提言「ESG 金融大国に向けて」を受け、ESG 金融をさらに具体的に進め、金融界がどのような戦略を打ち出すべきかについて、タスクフォースで議論したため、名称を変更した。
- 合計 3 回のタスクフォースを開催した。その経緯は資料 1-1 の最後に掲載した。
- TF と環境省の連名で、「ESG 金融大国となるための取るべき戦略」という提言を作成した。内容は 2 月 1 日に全署名機関に意見募集ということで送付した。今朝までには、ご質問、ご意見は事務局に届いていない。
- 提言の内容について、TF の副座長のお二方よりご説明をお願いしたい。

### ○OTF 副座長からの説明

- 資料 2-1 にあるように末吉座長の元、タスクメンバーとして金井氏とサポートさせていただいた。事務局からお話あったように、2018 年 7 月 27 日に ESG 金融懇談会から「ESG

金融大国を目指して」という提言がまとまっている。3回のTF会合を経て、皆様にご覧いただける運びとなった。

- 全体の構成としては、「1. 前文」、「2. 21世紀の金融の在るべき姿を再考する」、「3. 終わりに」、それからそれぞれのアクションリストという構成になっている。
- 前文は、21世紀金融行動原則、気候変動の影響、国際金融の動き、最後に金融懇談会の動き、G20に向けて提言をするという運びになっている。現状としては、日本や世界の異常気象、プラネタリー・バウンダリーという話において、社会、経済、金融を挙げて対応が求められている。国際金融の動きとしては、TCFD最終報告、SASB (Sustainability Accounting Standards Board : 米国サステナビリティ会計基準審議会)、ヨーロッパではサステナブルファイナンスなど金融を取り囲む議論も活発になっている。そのため金融大国として、私たちとしても提言していくということだ。
- 「2. 21世紀の金融の在るべき姿を再考する」というテーマで、3点報告させていただく。一つ目は、持続可能な社会への移行を社会実装するために求められる金融のリーダーシップである。エネルギー転換、インフラ、ライフサイクルの中で、持続可能な人生を送るための社会を創り上げる資金需要に応えるという、非常にチャレンジングな内容となっている。二つ目は、多様な主体間でのパートナーシップとリスクシェアリングにより、持続可能な社会へのパラダイムシフトを加速させていることである。最後、社会的インパクトのある金融の実現については、長期的な視点をもって、事業の成長を支援する姿勢が重要である。社会的インパクトなる金融を実現していくために、リーダーシップ、実現、パートナーシップという力強いメッセージが掲げられている。最後にレジリエンスということで、日本は災害を克服するポテンシャルを持っている。金融行動原則の署名機関をはじめ、アクションリストを参考に活動していくということだ。国もビジネスセクターの変化を後押ししていくべき、支援をするという内容になっている。
- 別添としてアクションリストを付けた。①資金の出し手、②資金の流し手、③資金の受け手というアクターごとに、その対応について時間軸により示している。④リスクの担い手、⑤パートナーシップという連携についても示した。これを6月のG20に向けての提言としてまとめさせていただきたい。スケジュールとしては2/1から2/12かけて、パブコメの期間として設け、最終的には3/6の総会で決議をいただきたい。
- 流れをお話いただいたので、感想めいたことを述べたい。元々、G20ではサステナブル金融は大きなテーマになっていた。去年はアルゼンチンが議長国、日本の後は、サウジアラビア、アメリカと続く。トランプ政権では、この流れが引き継がれることが期待できない状況では、議長国の日本がその流れを途切れさせないようにするためにどうしたらよいかを考えた。本来は金融当局が動くべきだが、政策的な提言は金融当局から出せないため、環境省の協力を得る形で、また、日本のために何ができるかを語ったほうがよいと考え、21世紀金融行動原則が提言を出すことになった。21世紀金融行動原則は、日本全域のほぼすべての業界が入っており、この組織の意義の大きさを感じた。
- もう一つ提言策定で感じたのは、金融行動原則策定当時に戻ったような内容になっている。金融行動原則が作られた2010年から比べると、サステナブル金融など、当時はなか

ったものが動いており、改定も必要かもしれない。今回の提言は意味合いとしては、原則の改定とまではいかないが、原則を作った際には作ることができなかったアクションリストが作成されるなど、いろいろな意味で金融行動原則を補完・補強する提言となっている。ヨーロッパのサステナブル金融やインパクト評価など最近アップデートされたものであり、ピンと来ない内容も入っているが、文章は作り込まれ、今後、大きな意味を持つことになる。皆さんもぜひ読み込んで、会社の業務にも、金融行動原則にも生かしていただきたい。環境省の永田氏の努力のたまものである。

- **G20** での議論にサステナビリティや環境を前面に出るとアメリカ、サウジなどの手前使いにくい。サステナブルファイナンスについては、**G20** 議長国が議論を続けてきたことを、日本が途切れさせてはならないという問題意識があった。**UNEP** からも呼び掛けがあって、**TF** が設置された。東京海上ホールディングスの長村氏のご提案と記憶しているが、イノベーションを実装するためには金融は不可欠であり、それを基調として使いながら、インベストメントチェーンなども取り込み、結果として行動原則の改定を示唆する内容になっている。突然できましたと言われると、タスクフォースメンバー以外の署名機関には、唐突感があるかもしれず、実際、「誰のためのメッセージか」というコメントもいただいている。**G20** の歴代議長国のメッセージを誰かが出さないといけない。その受け皿になるのは、21世紀金融行動原則しかないというのは、**ESG** 金融懇談会でも出していた話であった。短期間で、これだけのものができた。とてもよい文章だと思っている。

## ○環境省からの説明

- 2018年10月の**TF** 設置から、議論をいただいた皆様に感謝したい。熱い議論をしていただき、これだけの内容を取りまとめていただいた。環境省は事務局的な機能は果たしたが、中身は皆様の議論に基づいて作成した。骨太で、アクションリストという形で、資金の出し手、流し手、受け手、リスクの担い手、パートナーシップという形で、それぞれのセクターの方が貢献し得るのかを具体化できた。すべてはできないかもしれないが、署名機関の方々、ここの入っていない金融セクターの方々にも、少しずつでも取り組んでいただければと考えている。事務局を務めることもあり、連名に環境省も加えさせていただき、国としての措置も書き込ませていただいた。環境省としても **ESG** 金融は重要と考えており、発信していきたい。**ESG** 金融懇談会の後続として、2019年2月28日に「**ESG** ハイレベル・パネル」を設置し、金融機関等のトップの方に出していただき、議論を改めて始めたいと考えている。こうした場にも21世紀金融行動原則にも入って、議論していただければと考えている。**G20** に向けても、どのような在り方があるのかを我々も検討している。サウジ、アメリカがある中で、サステナブルファイナンスの灯を消さずに盛り上げていくかは難しいところがあるが、日本が議長国として、日本としてもグローバルに機運を盛り上げて行ければと考えている。今回、非常にタイトなスケジュールで取りまとめていただいたことに、改めて感謝したい。スケジュールとして、3/6の総会において提言の議決をしていただき、国内外に発信する機会を、我々としても持た



いと考えている。

## ○委員からの意見

- 短期間にアクションリストを含めてまとめていただいた TF のみなさまに感謝し、高く評価したい。「2. 21 世紀の金融の在るべき姿を再考する」にアクションリストをつなげた方がよいのではないか。現在は最後にアクションリストがあり、参考資料に見えてしまう。本文に入れた方が、アクションリストを読み手が受け取るのではないか。また質問であるが、前文の第 2 パラグラフの記載にある IPCC は政策中立であるはずなので、研究者がゼロにすべきだと主張していると見えてしまう。IPCC は、客観的な情報を出しただけで、それを決めるのはポリシーメーカーや我々である。我々としては、このように考えると書いた方が伝わるのではないか。
- (環境省) アクションリストを本文にしてという部分、ごもつともである。ただし、アクションリストが具体的であるが故に、250 の署名機関の合意を得るためには、抽象的にすべきではないかという話の中で、TF での議論を経て例示とした。合意できるような状況になれば、そのようにしたい。IPCC の記載はセンシティブなところであり、書きぶりは悩んでいる。タボス会議において IPCC の議論が報告されている。IPCC のインプリテーションを参考にしてはどうかという書きぶりにしている。
- (事務局) 意見募集は続いている。現時点では意見をいただいているが、締め切りまで待ちたい。本日の運営委員会で承認をいただければ、定時総会の議案とさせていただきます。意見募集が終わった時点で、議案等の発信を全署名金融機関にさせていただきます。
- 総会で OK となってもよいが、このままだと出しっぱなしで終わってしまう。金融行動原則において、これをどう使うかの議論ができていない。運営委員会において、アクションプランをどのように使うのかという議論を、したほうがよいのではないか。アクションプランを実現するために、運営委員会としてどうするのかというのは、今後の議題として考えがほうがよい。
- 具体的な活動は各 WG が担うことになっている。各 WG がこのアクションプランを踏まえて、どのような活動をするのかを考えてもらうようにしてはどうか。このままでも来年度の WG は、アクションプランと似た内容になる。各 WG にアクションプランを使って活動をしてもらってはどうか。
- 提言はとてもよい文章であり、パブコメもしたい。21 世紀の金融の在るべき姿、エネルギー、金融、ライフスタイルなどがある。グリーンビルディングジャパンでは、国際市場を相手にしているため、国土交通省が進める CASBEE (Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency) とは距離があるかもしれない。環境不動産 WG も海外だけでなく、国内の CASBEE にも入ってもらい、つながるとよいはずのところがつながっていないところがある。パブコメでしていいのか分からないが、グリーンビルディングジャパンの参加機関に対して、意見をもらえると、提言が実のあるものになるのではないか。署名機関にのみ送られているので無理であろうと思いつつ、念のため確認

したい。来年度以降の WG の活動のためにも、問題提起と質問をさせていただきたい。

- 平松氏が全体を集約し、平松氏からコメントを出してはどうか。
- (事務局) コメントを出すのは署名金融機関のみだ。現時点では 21 世紀金融行動原則として、このような提言を世の中に出すための意見を募集している。広く意見を集めるパブコメではない。
- 難しいところがあると思うが、実のある提言をするのであれば、そのようなところからも意見を聞いてもよいのではないか。
- (環境省) 今のところは署名金融機関にのみ意見募集している。そこをかみ砕いてご意見いただき、事務局と座長預かりとさせていただきたい。
- 金融に言いたいことがあるという声はとても重要だ。今のままでは意見がすり合わせられない。グリーンビルディングジャパンの方が金融に期待することが分かるとよい。それを平松さんがまとめる形で、このような業界はこのような期待があるということを示されてはどうか。そのような期待はぜひ聞きたい。
- (事務局) 3/6 の総会で議案とすることを可決させていただき、総会の当日に意見交換を、ESG テーブル、SDGs テーブルと分けて意見交換をさせていただきたい。その際に具体的にご質問いただくこともある。竹ヶ原氏も言われたが、各 WG の中で企業と投資家のセッションを設ける中で金融の皆様に発信いただき、意見を出してもらいたい。

## ○承認

- 提言を定時総会の議案とすることについて承認いただけるか。

承認事項：「提言：ESG 金融大国となるための取るべき戦略」の 3/7 の定時総会での議案としての上程について

- 承認いただけたとのことで、正式に議案とすることにしたい。出してもらった意見やコメントを踏まえた調整は、事務局と委員長扱いとさせていただきたい。

## 3. 平成 30 年度定時総会及び意見交換会について

### ○事務局より資料 3-1 に沿って説明

- 開催日時は 3 月 6 日 (水) 13:30-17:00 を予定している。
- 会場は、昨年度と同じ、永田町にある「都道府県会館」を予定している。プログラムの構成もほぼ去年と同じである。1 階で総会を行い、その後 4 階で 2 部屋に分かれて「意見交換会」を実施したい。
- 本日、ご意見いただきたいこととして、意見交換会のテーマは、議題 2 で議論いただいた提言を題材に例えば「ESG テーブル」と「SDGs テーブル」に分かれ、議論を行いたいと考えている。資料 3 の意見交換会で、懸念点を書いているが、意見交換会で、直接金融と間接金融を分けて議論してはどうかという意見は繰り返しいただいている。またシ

ンポジウム形式に戻すことも可能である。昨年度は、二つのテーブルのうち地方創生は署名機関のみに参加いただいた。聴衆の範囲をどこにするかについても、ご議論、ご意見いただきたい。

- (環境省) 環境省の中井統括官、金融庁の佐々木総政局長にお越しいただければと考えている。UNEP FI の安井氏がバンコクから来ていただけるので、10分程度、UNEP FI の最新の動向をご講演いただければと考えている。総会の場で地方金融機関の方も参加されるため、是非 UNEP FI の方にご登壇いただきたい。

### ○運営委員より

特になし。

### ○運営委員長より

- 個人的には ESG は投資家の視線で、SDGs はみんなやると説明している。しかし参加者は ESG と SDGs の違いは、すぐに分かるだろうか。

### ○運営委員より

- (環境省) SDGs テーブルは地銀の皆さんを始め、参加者が多い。ESG テーブルは投資家を含めた機関が多いのではないかと。同じ会社から複数名参加すれば、銀行の方でも ESG テーブルの方に出たいということもある。今回は署名機関のみに参加を限定し、ざっくりばらにご議論いただく。二つでやるのか、一つに合わせてやるのか、銀行と投資家と一緒に議論するのも金融行動原則にしかできないとの声もあるので、チャレンジングにやってもよい。
- 地域での持続可能なビジネスモデルを作ることをテーマに投資家を呼んで、投資家と金融機関が直接議論する場を持つてはどうか。
- 例えば当行で SDGs の担当はどこかと問われれば、環境面では我々だが、本来は企画部になる。企画部には経営企画や広報、IR などがあり、それらの担当部署が現時点で意見交換会等に登壇するなどの対応できない。話はずれるかもしれないが、地方銀行協会ではアンケートをした際に、SDGs の担当を決めているのは、64 行の内 26 行であった。機運は高まっているものの、新しいことをやるとなると、他行の様子を伺いながらになる。投資家にどのように評価されるか、それを説明するかは、我々でも話ができない。署名金融機関の出席を得るには難しいのではないかと。
- 当行も同じで、SDGs の所管部署は経営企画部、地方創生部になるが、お互い SDGs の担当を擦り付けているところもある。それが地銀の状況だ。投資家との対話も魅力的ではあるが、269 のうち 213 と地方の占める割合は高いものの、そのような内容になると付いていけないところが多い。一方で、SDGs や ESG というキーワードはよく出る。日本の森を守る地方銀行有志の会があるが、年 1 回、2 月に担当者レベルの情報交換会がある。これまでは環境保全がテーマだったが、今年のテーマは ESG と SDGs であった。意見交換会のテーマを何にするかを具体的には申し上げられない。全機関の何パーセントが総

会に出席されるのか。

- (事務局) 去年は約半分が実際に出席されている。議決権行使は 80% を超えた。皆さん、何かしらの意見を表明されている。
- 総会の場に出向いてもらう方がたくさん出ればよい。そのためには、地方の人も総会の場に出て、意見交換会を聞いて、身近に感じられるもの、自社に戻って有意義なものだったと言えるような内容になればと思う。
- 過去のシンポをご覧いただきたい。平成 24 年度から平成 27 年度までは、総会が終わった後、大きなテーマで有名な識者を呼んでいた。私は多く出司会進行を担当したが、地域の金融機関の多くが表彰で来ており、表彰が終わると帰ってしまう。シンポは盛り上がるが、署名機関以外の、関心のある一般の聴衆が喜んで聞いている。これはまずいという議論があった。過去 2 回 (平成 28 年度、平成 29 年度) は、せっかく出席してもらった署名機関に最後まで残ってもらえるように、日常の業務に近いところで、ディスカッションできる場を設けようとした。そこで二つに分け、シャイな方も多いので、署名機関の内輪しかいないから、安心して議論してくださいとした。参加される方が最後までいていただけるようにすると、分かるような、たてつけにせざるを得ない。しかし間接・直接をいつまで分けているかという議論もある。かつこのよいパネルディスカッションをしても先祖帰りするだけだ。今の形式はそれなりに故があって行われてきたことを共有したいと思い、報告した。
- **SDGs と ESG** は、片や投資家、片や直接金融、間接金融になる。インベストメントチェーンで、投資家が **SDGs** を踏まえて地域創生をする、地銀に投資する。地域金融が地域をドミネイトしている。そのラインを作らないと、日本で **SDGs** が何をするかとなると、投資家も分かっているかと言え、よく分かっていない。このように見るのだという見方、テストケースなどがあると、間接と直接が、まさにリンクする場になるのではないか。それは株式投資のイメージであるが、投資と融資を分ける必要はないので、両方をミックスできる場を設ければ、二つがばらばらという流れから離脱できるのではないか。
- (環境省) そのようなことは、私としてもやりたいが、実際には残り 1 ヶ月しかない。**WG** 座長にはメインテーブルに座っていただきたい。間接金融の方が、総会というかなり注目を浴びるところで登壇していただき議論するには、難しいと言うご意見もある。次年度、預貸と運用の共催 **WG** にして、署名機関限定でやってみるというのはいかがか。今年度は、地域金融機関の方々をメインとした **SDGs** 等をテーマにした意見交換会にして、地域金融機関の方々がテーブルに座ってもらい、意見をもらい、金井さんなどに講師になってもらい、地域金融機関に **SDGs** において求められることを講演いただければと思っているので検討いただきたい。
- 1 ヶ月というスケジュールで考えると、そうなると思う。次年度に向けて、対立軸を設けては意味がない。間接金融、直接金融が、地域経済をどのように支えていくのかという視点で、ディスカッションや意見交換ができれば、有意義な時間を共有できる。気になっているのは、**ESG** の会合を主催するとした場合、運用 **WG** でやるとした場合、提言のアクションプランの中には、我々としてパートナーとして考えなくてはいけないアクタ

一として企業がある。アクションプランの中で巻き込みをして共有していくこともあるのではないかと。ESG のところは、これからのボリューム感、テーマをご相談させていただきたい。

#### ○運営委員長より

- 環境省と事務局に引き続き、企画の準備をお願いしたい。

### 4. 事務局からの報告

#### ○事務局より資料4-1及び4-2に沿って説明

- 収入については、今年度の署名記入機関は合計 269 機関、うち年度途中で署名された機関が 13 機関である（なお、富山リースは会費支払後署名撤回のため、1 機関は現署名機関数に含まれない）。13 機関については月割りの会費となっており、1 機関は先月新規署名のため会費は未入金である。収入は予算に対して 25 万円増加している。
- 支出には見込みも含まれている。人件費については、予算に対して 10 万円増えている。これは、ESG 金融タスクフォースに関する事務作業が追加となっていること、また年度当初には運営委員会に関する事務をできる限り簡素化を図るということできりぎりぎりに抑えた形での予算だてとしていたためである。実際には前年度と同様の形となっているため、少し上乗せさせていただいている。
- 業務委託費の（2）その他経費については、いずれの費目についても予算内に収まっている。差がある部分のみ報告する。ウェブ保守管理については、一部の作業を事務局内部で効率的に進めることができたため、外部委託費を軽減することができた。雑費（8.6 万円）が超えているが、環境新聞への広告を掲載したためである。
- 以上から、現時点で収入と支出の差額が 40 万円弱。活用方法についてご意見いただければと思う。

#### ○運営委員より

特になし。

### 5. その他

#### ○運営委員より

- 来年度の運営委員会の会場を提供いただける会社を募集したい。この場では難しいかもしれないが、いかがか。改めて調整したい。

### 閉会

#### ○環境省 芝川室長より挨拶

- 本日もご多用中、立派な会場をお借りし、本年度の活動について、各 WG の充実した活動をご披露いただき、ESG 戦略 TF ということで、当初の原則の補完・改訂という時代にあったものがまとまったことは、大変喜ばしい。これをきっかけに取り組めていない金融機関もあると思うので、議論が活発になるように環境省としてもサポートしたい。
- 2/28 に ESG 金融懇談会から、ESG 金融ハイレベル・パネルを開催予定である。署名金融機関の皆様には、優先案内の受付のメールを発信させていただいている。席を優先的に用意したい。また 3/6 の総会までにメールベースでご連絡を差し上げるかと思うが、ご協力をお願いしたい。

#### ○運営委員長より、閉会挨拶

- 本日の参加者への御礼と、閉会の挨拶をもって終了。

(以上)